能美市立病院

『新病院基本構想；概要版』

能美市立病院

2026年5月

能美市立病院　新病院基本構想　概要版　（1/2）

はじめに～基本構想の策定背景と基本構想の位置づけ～

能美市立病院は総病床数100床（うち一般病棟60床、療養病棟40床）の病床機能を有し、「いつもあなたのそばに能美市立病院」をキャッチフレーズとして様々な患者のニーズにお応えできるポストアキュート機能とサブアキュート機能の体制を整えています。

令和6年3月に「能美市立病院経営強化プラン」を策定して経営強化を計画的に進めていますが、災害や新型コロナウィルス感染症などへの対応力の強化、人口動態の変化に伴う疾病構造の変化への対応、看護師等の人材不足も含めた多くの経営課題解決とともに建物の老朽化への対応が求められております。

本基本構想は、これらの課題解決も含め、地域の皆様に安全・安心な医療を安定的に提供するための市立病院の役割、今後の方向性や機能・規模・体制を明確にする計画の出発点です。本基本構想に基づき、具体的な計画から建設を経て、新病院整備を目指します。

能美市立病院の概要と現状

病床数	100床	4階病棟：一般病棟60床（急性期25床　地域包括ケア35床） 3階病棟：療養病棟40床
診療科（12科）	内科・外科・整形外科・眼科・脳神経外科・泌尿器科・小児科・皮膚科・耳鼻咽喉科・婦人科・リハビリテーション科・ 老年精神科（もの忘れ相談外来）	
敷地面積	15,206.83㎡	
構造	①本　　館：鉄筋コンクリート造地上4階、塔屋2階 ②旧療養病棟：鉄骨造地上4階 ③東　　棟：鉄筋コンクリート造地上4階、塔屋2階 ④北　　棟：鉄筋コンクリート造地上3階、塔屋2階	
規模	建築面積　4,677.82㎡、延床面積　11,415.86㎡	
その他	健診センター、透析センター、地域医療推進センター、 患者用駐車場95台、自転車置き場30台	

【老朽化の状況】

建物の老朽化などのハード面における課題が顕在化しています。その他、外壁亀裂や基礎周辺沈下、ボイラー・空調設備の老朽化、漏水等、いくつもの課題を抱えております。

外壁亀裂状況

漏水状況

【地域貢献・公的病院としての使命（感染症対応・災害対応）】

市の病院として、感染症対策や災害/震災対応、効率的/先進的な医療環境の整備（DX/デジタル化）、地域連携におけるCT・MRIの共同利用促進など、生活から地域医療まで幅広い役割を担ってきました。

□新型コロナウイルス感染症への対応状況

2020年4月5日に県内感染者を受入れし、2021年4月から基本型接種医療機関として能美市内全医療機関のワクチン分配払い出しを実施、2021年12月から個別接種開始（一日最大180人接種）、2020年3月～2025年3月まで延べ544人を受入れました。

□能登半島地震への対応

2024年1月1日に災害本部を立ち上げ、周辺住民の避難受入れを行い、同年1月4日には透析患者の受入れし、以降は骨折患者、心不全患者等、DMATとの連携にて随時受入れを実施しました。

【経営状況】

収支状況は一定の補助に支えられながら経営をしています。R6年度においては、20億6千6百万円の収益に対して物価高騰等や人件費の増加などもあり23億6千7百万円の費用を計上し、収支は3億1百万円の赤字となっております。現在、経営強化プランに基づき経営改善に取り組んでいます。

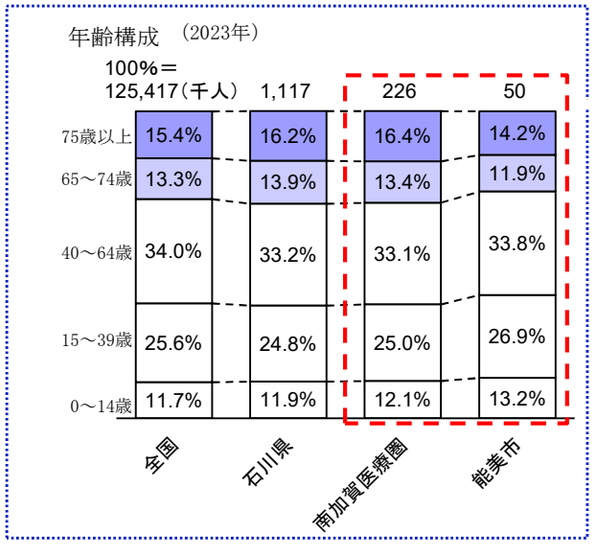
能美市における医療環境の現状と課題

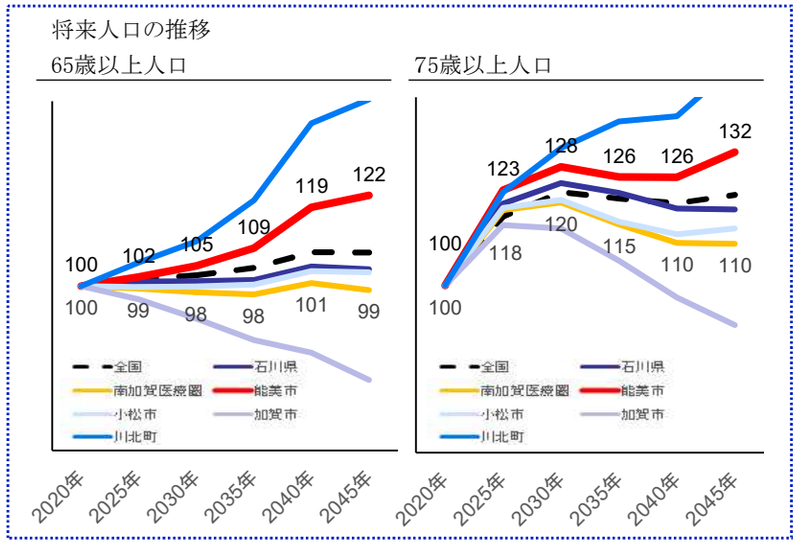
【人口、年齢構成】

南加賀医療圏の人口構成は、年少人口（0～14歳）12.1%、生産年齢人口（15～64歳）58.1%、高齢人口（65歳以上）29.8%となっており、全国や石川県とほぼ同様の構成ですが、能美市では高齢人口26.1%と若い層がやや多い状況です。

【今後の医療需要の予測～地域医療構想を踏まえて～】

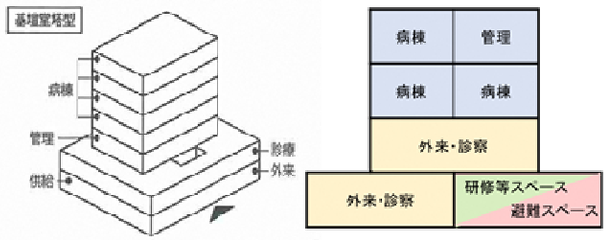
国が示す地域医療構想は、これまでは病棟機能の自主報告による機能選択が示されていましたが、今後は、病院機能の選択が求められる方向性です。能美市の将来人口の推移では高齢者、後期高齢者の人口は2045年度まで増加することを見据え、能美市に所在する医療機関としては、高齢者救急・地域急性期機能、もしくは在宅医療等連携機能が求められると想定しています。





新病院の建物構想

建物のイメージとしては、現時点においては、右図のような基壇堂塔型を想定し、建物断面構成は下層階は外来・診察他、研修等（災害時等は避難スペース）のスペースを計画する予定です。また、上層階は病棟を計画します。延床面積は9,000㎡前後、駐車場250台前後、免振構造とし、浸水対策として盛土を計画します。



新病院の建設予定地に関する検討のポイント

現在の敷地では入院・外来等の医療提供を継続しながら、新病院を建設するための十分な面積を確保することは困難なため、新たな場所での建設を検討するにあたり、以下の点に十分留意して選定します。

- 津波や洪水などの災害時のリスク回避
- 救急搬送の弊害となる踏切等の回避
- 連携医療機関とのすみ分け＆患者搬送/移動の円滑化迅速化を考慮した場所（医療連携アクセス）
- 居住地域から病院へのアクセスの良さ（通院アクセス）
- 景観やサイレン音（住民への騒音）への配慮した場所選び

新病院の診療体制

新病院での診療体制について目指す病床数や診療科、機能等は右記のとおりです。ただし、近隣医療機関との役割分担、今後の医師などの人員確保状況、診療報酬改定等を踏まえ、必要に応じて見直しを図るなど、柔軟に対応していくこととします。

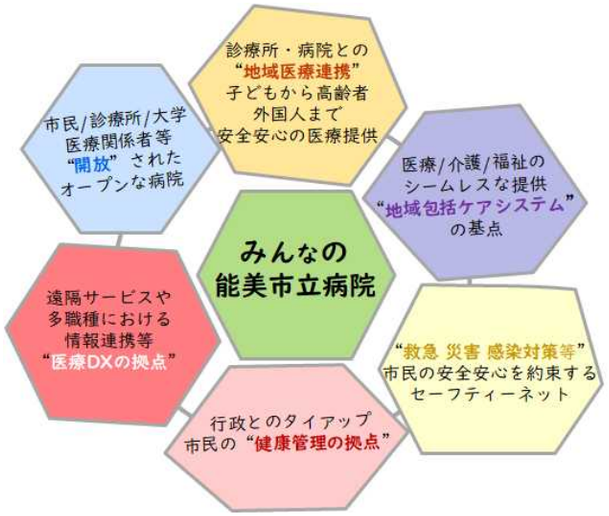
病床数	100床（急性期病床25床、地域包括ケア病床75床）
診療科構成	・ 内科系：総合内科、内分泌/糖尿病/代謝内科、腎臓内科/人工透析、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科 ・ 外科系：外科、整形外科/骨粗しょう症、脳神経外科、呼吸器外科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、美容外科、 ・ その他：小児科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、老年精神科（もの忘れ相談外来）、健診科、訪問診療科、セカンドオピニオン・看護外来
その他機能	・ センター機能：透析（維持透析）、結石 ・ 健康管理機能：健診/ドック（一日ドック、ワンコイン健診、認知症健診、レディース/メンズドックなど） ・ 在宅療養支援病院

能美市立病院　新病院基本構想　概要版　（2/2）

新病院の基本構想

【新病院コンセプト①：6つの基本コンセプト】

新病院に期待される役割を捉え、能美市立病院は「みんなの能美市立病院」として、6つの基本コンセプトの実現を目指します。



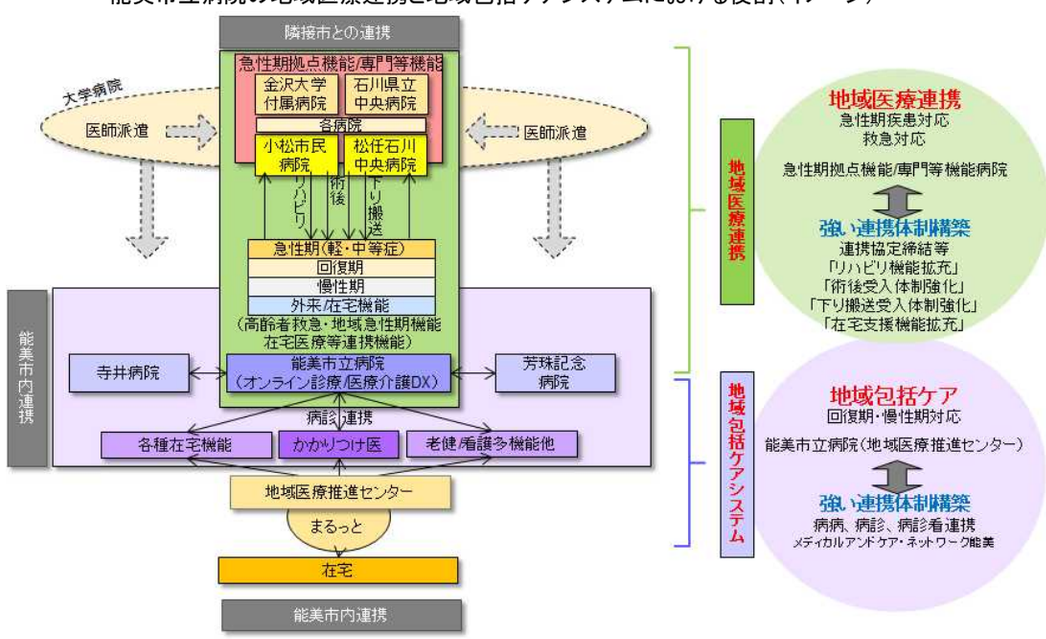
■診療所・病院との“地域医療連携”子どもから高齢者・外国人まで安全安心の医療提供

能美市立病院は、急性期拠点機能や専門機能を有する隣接市における公立病院や市内医療機関との地域医療連携を強固にし、リハビリ機能の拡充や術後患者の受入れ、下り搬送や在宅支援機能を充実します。

■医療/介護/福祉のシームレスな提供“地域包括ケアシステム”の基点

市内において、地域包括ケアの考え方に基づき、回復期・慢性期対応とし、その中において、市内医療機関やメディカルアンドケア・ネットワーク能美（MCN)も重要な役割を果たします。

能美市立病院の地域医療連携と地域包括ケアシステムにおける役割（イメージ）



■“救急 災害 感染対策等”市民の安全安心を約束するセーフティーネット

救急における管外搬送の課題に対し、能美市消防本部との連携を強化した「救急ワークステーション化構想」を検討します。救急ワークステーションでは市内救急救命士の生涯学習の研修施設としての機能のほか、救急救命士が待機しながら、必要であれば病院スタッフが救急車に同乗し、管内搬送の件数向上を目指します。

また、感染・災害時対応においては、「多目的スペースの活用」や「動線・ゾーニングの工夫」、「屋外スペースや備蓄スペースの確保」、「個室化構想」の他、看護管理の効率性や見守り機能DX、コミュニケーション・交流の場などを計画しています。

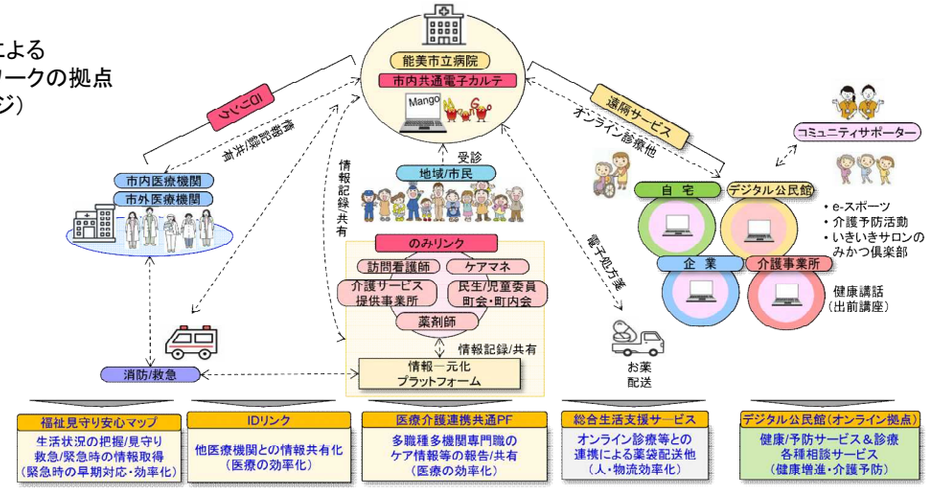
■行政とのタイアップによる市民の“健康管理の拠点”

市民の健康管理の拠点として、健康のみ21が示す「妊娠期（胎児期）」～「高齢期」までの各フェーズに対応する形で医療サービスをインフラ及びネットワークを活用しながら推進します。例えば、妊娠期においては、市主導で産後ケアを施し、病院は助産院と協力しながら開放病床を提供します。高齢期においては、市が主導する保健事業と介護予防の一体的実施事業やオンライン診療において、デジタル公民館を活用するなど、行政施策とのコラボレーションによる医療サービスを提供します。

■遠隔サービスや多職種における情報連携等“医療DXの拠点”

医療DXの拠点として、市内市外との医療機関との間においては、“いしかわ診療情報共有ネットワーク（IDリンク）”による情報共有を図ります。能美市内における訪問看護師やケアマネジャー等、多職種多機関の間においては、ケア情報の一元化や共有化を実現する“のみリンク”を活用するほか、デジタル公民館や企業、自宅、介護事業所間における遠隔サービスとして、オンライン診療などを提供します。

医療DXによる
地域情報ネットワークの拠点
（イメージ）



■市民/診療所/大学医療関係者等“開放”されたオープンな病院

地域に開放された病院として、市民、医師会、医療介護関係者及び大学病院医師等関係者など、多方面の方々が利用できる病院を計画しています。例えば、市民に対しては、医療の提供はもちろんのこと、場の提供として、ワークショップやギャラリー、コワーキングスペースや生活用品の調達（コンビニ機能）、カフェスペースや院内庭園、お散歩スペース、メディカルフィットネスなどを計画します。

【新病院コンセプト②：光り輝く未来に向けて；地域包括ケアシステム「のみモデル」】

住み慣れた地域で、医療介護サービスや生活支援、介護サービスなど、切れ目ない支援を包括的に、人生を自分らしく、尊厳をもって、健康で、光り輝く未来に向けて、行政とのタイアップと医療DXによる地域包括ケアシステム「のみモデル；のみのみらいふ（仮称）」を構築します。能美市民の健康を行政とのタイアップによる多種多様な手法により、地域コミュニティを見守り、支えます。

- 救急医療は高齢者・地域救急に特化した救急ワークステーションで、在宅復帰は地域医療推進センター“まるっと”により包括的にサポートします。
- 近隣地域の高次医療機関とは、連携協定のもと地域医療連携により、下り搬送・転院による連携体制強化と患者情報連携「いしかわ診療情報共有ネットワーク（IDリンク）」で支えます。
- 地域の医師会と連携し、検査・検査入院、バックベッド（後方支援病床）、機器共同利用など、共に市民を支えます。

新病院の建築スケジュール（仮）

行程	概要
R7年度：能美市立病院在り方検討委員会・基本構想策定	－ 新病院のコンセプト － 新病院の機能や診療科 － その他、災害時対応の考え方など
基本計画	－ 新病院の建築面積・病床/病棟数、階数、診療補助部門他 － 主要設備・システム・人員配置 － 事業予算概算
基本設計	－ 建物配置計画 － 部門配置、医療機器配置等
実施設計	－ 配置計画、部門ゾーニング － 建物構造・耐震基準、動線確認 － 空調、給排水、電気、医ガス、通信回線ルート他
建物工事	
新病院オープン（R13年度予定）	